

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数／500 名（2014.5.21 現在）

編 集 発 行／「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL：090-2604-7918 FAX：019-653-6447

郵便振替口座／02250-1-60580 E-mail／hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage（岩手ホスピスの会通信）／<http://hospice.sakura.ne.jp/>

No. 49
2014 年 7 月



ホスピスセミナー開催



これからの岩手の終末期医療、緩和ケア、ホスピスについて考えるホスピスセミナーは 5 月 17 日開催され、岩手県立中部病院緩和ケア科医師・星野彰先生が「地域で支える緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町をめざして」と題して講演しました。

星野先生は中部病院において外科・緩和ケア・地域連携の仕事をしています。岩手ではがんで亡くなる方が年間 4,000 人に上っている。なぜがんで亡くなる人が多いかというと日本人が長生きするようになったからである。このような時代にがんという病のつらさを和らげる緩和ケアはますます重要になっている。いつでもどこでも緩和ケアが受けられることが患者さんにとって大切であると強調しました。

嬉しいニュースとして、今年岩手医科大学医学部に緩和医療学科が誕生し、木村祐輔先生が特任教授に就任されました。木村先生によると岩手の緩和ケア病棟（ホスピス）は 5 か所計 100 床で、全国の各県別人口当たりのホスピス病床数で第 5 位となっています。しかし地域別でみると沿岸部・県北部に緩和ケア病棟（ホスピス）がありません。現在緩和ケアが目指しているものは、がん相談、カウンセリング、緩和ケア外来を通して、がんになった時からの緩和ケアの提供である。ホスピスだけでなく一般病棟でも自宅でも、地域全体で緩和ケアを提供することが重要。

また、星野先生の活動拠点、岩手県中部地域の北上市では「がんになっても安心して暮らせる町をめざして」をキーワードに、地域でがん患者さんを支える取り組みが始まっています。行政、医師会、訪問看護、病院、市民が連携しながら患者さんを支える。中部病院も緩和ケア外来、緩和ケア病棟、がん相談室、緩和ケアチーム、在宅医療チームが縦横に連携をとりながら患者さんをサポートする取り組みを行っています。

これからも地域の連携を大切にしながら、「がんになっても安心して暮らせる町」をめざして努力を続けたい、と結びました。



星野 彰先生

全国がん診療連携拠点病院へのタオル帽子配布

毎年恒例の「全国がん診療連携拠点病院」へのタオル帽子配布活動は6月と12月の2回取り組まれ、昨年まで5万個程度の帽子を全国の患者さんへ届けてきました。

今年度から運営資金の軸であった助成金の打ち切りにより、例年規模の取り組みの見通しがたたない状態となっています。

しかし、全国の病院からの問い合わせが続き、病院側へのご負担などもお願いをしながら順次取り組んでいます。

運営資金は内野株式会社からのタオル帽子売上によるご寄付や、独自のフリーマーケット、各種助成金など手さぐり状態ではありますが、タオル帽子の先に闘病に励む患者さんを支援できるボランティアを目指します。今回（2014年6月）の申し込み病院は21件、1,600個の帽子をプレゼントしました。



タオル帽子を作成するボランティアの皆さん

【送付先病院一覧】大垣市民病院、NTT 東日本関東病院、長野市民病院、諏訪赤十字病院、藤岡病院、三沢市立病院、那覇市立病院、岐阜県総合医療センター、三重大学医学部附属病院、愛知県がんセンター中央病院、金沢医科大学附属病院、岐阜大学医学部附属病院、鳥取市民病院、愛知県立中央病院、宮崎大学医学部附属病院、飯田市立病院、秋田赤十字病院、都城病院、鹿児島医療センター、熊本大学医学部附属病院、大分大学医学部附属病院

緩和ケア病棟（ホスピス）入院料届出受理施設：300 施設 5,991 床

（日本ホスピス緩和ケア協会ホームページより）

（2014年2月1日現在）

都道府県	施設数	都道府県	施設数	都道府県	施設数	都道府県	施設数
北海道	15	東京都	26	滋賀県	5	香川県	2
青森県	2	神奈川県	14	京都府	6	愛媛県	5
岩手県	5	新潟県	4	大阪府	19	高知県	7
宮城県	3	富山県	2	兵庫県	15	福岡県	30
秋田県	1	石川県	2	奈良県	2	佐賀県	3
山形県	2	福井県	2	和歌山県	2	長崎県	4
福島県	4	山梨県	1	鳥取県	2	熊本県	11
茨城県	4	長野県	4	島根県	3	大分県	5
栃木県	5	岐阜県	4	岡山県	6	宮崎県	3
群馬県	4	静岡県	3	広島県	9	鹿児島県	7
埼玉県	7	愛知県	15	山口県	5	沖縄県	4
千葉県	9	三重県	6	徳島県	1	全国計	300

※全国の緩和ケア病棟（ホスピス）は増加の一途を辿っております。皆様お住まいの県の施設数をご確認ください。

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2014 年 4 月～ 6 月)

当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008 年 6 月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで 51,900 個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。



◆はじめまして。私は岐阜県総合医療センター外来化学療法室に通院しているがん患者です。「がん患者ほっとサロン」でタオル帽子を知りました。「好みのものを選んでネ」と言葉をかけてもらいました。ショッピング気分も味わいました。タオル地の心地よさと皆様の温かい心のぬくもりが混じり合ったうれしい帽子ばかりでした。淡いブルーのタオル帽子と赤い花柄の布帽子をいただきました。いつもと違って笑顔で帰宅しました。夫は私を見て不思議そうに。ほっとした顔で、笑顔で迎えてくれました。家族まで幸せな気持ちにしてくれた帽子でした。本当にありがとうございました。(岐阜県)

◆初めまして、私は石川県小松市在住で今乳ガン治療中の身です。この度はタオル帽子をたくさん作って贈ってくださり、大変ありがとうございました。タオルの生地なのでとても肌ざわりが良くて被っていて気持ちいいので助かります。私達のように脱毛で心身ともに滅入っている身の者にとっては、こういったご好意はとても救われます。そして癒やされました。東北の方でいろいろ大変な状況にあるにも関わらずあたたかい心遣いをいただき本当にありがとうございました。感謝。(石川県小松市)

◆昨秋抗がん剤で脱毛し、ショックを受けました。その時看護師さんからタオルの帽子をいただきました。とても柔らかく頭にフィットし色も柄も私にぴったりで、お陰様で毎日を明るく快適に過ごす事が出来、順調に回復しつつあります。一針一針に込められた心暖かい贈り物、本当に有難く厚くお礼申し上げます。寒暖の差の激しい此の頃、ボランティアの皆様のご健康を心よりお祈り致します。(滋賀県・市立長浜病院)

◆病気になって3年。治療を続けています。帽子とともに…。本当に本当に助かっています。支えて下さってありがとうございます。(愛知県がんセンター中央病院)

フェイスタオルご寄付のお願い

皆様をお願い申し上げます。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルが不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひお送りください。

〈送 付 先〉

〒 020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 岩手ホスピスの会宛



岩手県立大船渡病院患者サロン訪問

4月12日、岩手県立大船渡病院がん患者サロン「よりどころ」をホスピスの会スタッフ4名で訪問し、患者さん同士の情報交換、支え合いの場に参加してお話を聞きました。患者さんの思いを目の前で聞くのはスタッフ4人とも久しぶりで、患者さんの思いに寄り添うためには常にそばでお話を聞くことの大切さを改めて痛感しました。参加した患者さんたちはもちろん全員が大船渡在住の方々に、東日本大震災で被災した体験が自分の中で大変大きなものになっていることを感じました。

参加した副代表・伊藤ヨシ子さんより

緩和ケアチームの医師、看護師、薬剤師、相談室スタッフの方々がコーディネートして毎月一回開催され、訪れる患者や家族の方々とお昼までの約2時間お話しするという実に単純であるが心温まる時間を共有していました。私たちもお話の輪の中に加えていただき、一人一人の紹介や病状、介護の事などをお話させていただきました。

震災後の地域連携拠点病院としての大船渡病院の役割は大きい、かなり広域から心の拠り所としてこのサロンに足を運んでいる、訪れる患者さんにとってかけがえのない場と感じました。私たちの多忙な活動の中でも原点に帰って、輪になって患者さんと話合うことの大切さを改めて感じたひと時でした。優しく香る桜が風に舞う中、心の温もりを大船渡から持ち帰って参りました。



【県立大船渡病院 がん患者サロン「よりどころ」】大船渡病院内 2F パティオ（2F 売店前）
毎月第2土曜日 10時～12時 〈お問い合わせ〉TEL：0192-26-1111（内線 2160）

第4回 Canps Station に出演

『がん患者ががん患者の為に出来る事はないだろうか？』患者の思いが同じ目線で伝わりお互いに勇気や希望を持つ事が出来る場所…そんな場所を作りたい！そんな思いから立ち上げられた『Cancer Supporter's Station』通称『キャンステ』に4月20日出演しました。このイベントは、がん患者団体支援機構とキャンステが主催する全国患者会テレビ電話会議で、ホスピスの会はこの日、これまでの活動、抗がん剤の副作用で脱毛に悩む患者さんを支援するタオル帽子活動、東日本大震災以降継続している被災地支援活動などについてインターネット電話「スカイプ」を使って話しました。当日は当会の他、愛知県名古屋市「がん心のケアの会」代表・毛利祐子さん、広島県尾道市「乳腺疾患患者の会・のぞみの会」代表・浜中和子同支援機構理事長らがゲスト出演して、広島、愛知、岩手と3箇所を繋いで、各会の活動について紹介し合い交流を深めました。



全国患者会テレビ電話会議

当日の内容は以下のホームページで視聴いただけます。

<http://cancer-supporters-station.com/event/>

タオル帽子開発 25

がん患者を支援する盛岡市の団体「岩手ホスピスの会」は東京の業者と連携し、抗がん剤の副作用で脱毛に悩む患者向けにタオル帽子を開発した。肌触りが良く、吸水性や通気性に富む。百貨店などで販売している。



タオルのプロが作った 「タオル帽子」

UCHINO&岩手ホスピスの会が共同開発した「タオル帽子」の販売が、今年の春から全国の百貨店、内野ネットサイトでスタートしています。

タオルのプロフェッショナルが作り出したタオル帽子は、製法はもとより生地が最高級!! 軽さとやわらかさを追求した、「マシュマロガーゼキャップ」は、手にしたことのない感触です。

空気を含んでふんわりとしたガーゼは、驚くほどやさしい肌触りで、脱毛の悩みや不安をすっぽりと包んでくれるような暖かさを感じることができます。

縫い目が頭皮にあたらないように配慮されたリバーシブルタイプで、使用される患者さんの使い心地には苦慮された事と思います。

内野株式会社には、タオル帽子活動を始めた当初からタオル類やタオル帽子の支援、震災時には被災地の方々への支援物資など様々な角度からその時々をサポートして頂いています。

現在、タオル帽子活動の大きな取り組みとなっています、全国がん診療連携拠点病院への無料配布は年間 8,000 個あまりの要望をいただいております。

運営費の助成金も昨年で打ち切れ今後の方向性が課題とされていました。今回、内野株式会社との共同開発に至り、売り上げの5%が寄付されることにより、今までの活動が継続できる見通しができました事に感謝いたします。

今後もボランティアの方々と共に、少しでも患者さんのお役にたてるよう頑張ります。

UCHINO × 岩手ホスピスの会
【タオル帽子お問い合わせ先】

内野株式会社

東京都中央区日本橋堀留町 1-7-15

TEL : 03-3661-7501

がん患者にタオル帽子を

がん患者を支援する福岡市の市民団体「對手ホスレスの会」は、東京のタオル製造館「内野」と連携し、患者用のタオル嚢子を共同で開発した。4月に全国の百貨店で販売を始め、売り上げの一部は同会への支援金に充てられる。

岩手ホスピスの会

同会は2008年、抗00億にする。がん剤の副作用で脱毛に悩む患者に贈るタオル帽子作りを始めた。主謀のニット帽より吸汗性に優れ、頭皮にも優しいタオル帽子は患者と好評を得た。これまでに全国7の病院に発送した数は1万3000個に上る。各地に活動を広める先ろそろ順時かなと思つたという。こうした事情を知った内野が帽子の開発を決めた。開発した帽子は肌触りが良く軽いバイエル地やガーゼを使用した300万円の発送料も負担になった。同会の吉島美穂樹、高い吸水性と通気

業者と共同開発・販売

頭皮に優しい肌触り



開発したタオル帽子を見詰める
吉野さん

性を備えた「個々300〜3000円(税抜き)」で売り上げの5%が同会に寄付される。全国の百貨店のほか、内野のウェブサイトの購入できる「寄付」は入手できない患者もいた。販売により必要とする患者に届ける」と話す。

同社は09年からホスピスの会「帽子やタオルを」と考えればできる限り(1人200)1472。

岩手県内各ホスピス現況（2014年6月現在）

（岩手ホスピスの会調べ 詳細は各病院に直接お問合せ下さい）

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢区羽田町 字水無沢 495-2
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111(代表) 緩和ケア相談室 内線 338 川村・阿部	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
病 床 数	10 床	22 床（全室個室）	24 床 （個室 20、2 床室 2）	24 床 （個室 18、2 床室 3）	20 床（全室個室）
ベ ッ ド	無料 8 室 有料 2 室	無料 12 室 有料 10 室	無料 17 室 有料 7 室	無料 14 室 有料 10 室	無料 20 室
有 料 室 料 金	1 日 3,150 円	1 日 5,400 円・ 10,800 円	1 日 3,130～ 6,370 円	1 日 3,150～ 12,810 円	有料室なし
看 護 師 数	15 名	18 名	17 名	17 名 + 補助 2 名	17 名 + ケースワーカー 1 名 + 看護補助者 6 名
ホ ス ピ ス 医	臼木豊先生、 米山幸宏先生	旭博史先生、 畠山元先生	平野拓司先生	関根義人先生、星野彰 先生、平賀一陽先生	菊池俊弘先生、 及川司先生
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室にご 相談ください。 月～土曜 8:30～ 17:15（担当 湊）	緩和ケア外来を受診	緩和ケア支援セン ターにお問い合わせ 下さい。 0191-23-3452	0197-71-1511 （入院相談他） がん相談支援室 相談時間： 平日 9:00～16:00	入院相談（担当：ケー スワーカー）後面談 入院検討会（医師、 薬剤師、栄養士、看護 師、理学療法士で構成）
審 査 日	随時	随時	随時	随時（入院依頼があっ たその日に即日対応）	随時（その後ベッド が空くまで待機）
ホスピス入院 平均待機者人数	院内 10 名 院外 4 名	0	0	3～4 名	2 名
ホスピス入院 平均待機期間	約 1～2 週間 （時期により変動あり） 重症者優先	外来受診後、平均 6 日	3～4 日	待機期間は同院一般 病棟や近隣の病院、 連携のとれている訪 問診療で対応	1～2 週間
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとん ど（8 割以上）	盛岡市周辺の方がほ とんど	一関市周辺や宮城県 北の方がほとんど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。その他は 水沢、盛岡南部等	奥州市周辺の方がほ とんど
緩和ケア外来	診察日： 月～水・金・土 8:30～17:15 木 8:30～12:30 担当医：臼木豊先生・ 米山幸宏先生	診察日： 月・火・水、要予約 担当医：旭博史先生・ 畠山元先生	診察日： 月～金、要予約 担当医： 平野拓司先生	診察日： 月・金の午前、 要予約 担当医： 星野彰先生	診察日： 水 担当医： 菊池俊弘先生
ホスピスボラ ンティアの 人数と活動	登録者 24 名 実働 7～8 名 ホスピスボランティ ア募集中 019-656-2888 4 階病棟藤原まで 都合のよい時間でよ いのでぜひ！	病院ボランティア 登録者 17 名。うち 10 名がホスピスで 活動中。 病院ボランティア募 集中	ボランティアコー ディネーター 2 名、 ボランティア 5 名 活動：ティータイム、 季節の行事	H23 年 6 月～ボラ ンティア活動開始 40 名登録 定期的に研修を行っ ている	現在登録者 20 名で 活動中。ホスピスボ ランティアを募集中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	ひだまりの会 年 1 回開催 院外の方も参加可能 連絡先：湊、藤原	設置検討中	なし	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 3 回開催	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 2 回開催
入 院 料					一般病棟と同じ

地域に広がる緩和ケア ⑤ ～

「胆沢病院がん患者サロン開設」

岩手県立胆沢病院 管理栄養士 蛇口真理子

胆沢病院では、4月から病院内の食堂を利用して「がん患者・家族サロン」を始めました。

この食堂は、水沢では人気のあるカレーショップの姉妹店です。昼食時はカレー屋さん、午後は落ち着いた喫茶店になり、病院に在ることを忘れるような雰囲気の良いお店です。

開催は、毎月第二木曜日 14:00～16:00 です。サロンは患者さん同士の交流の場、また病院スタッフは、緩和ケア認定看護師・医療社会事業士なども参加して一緒にお話をします。

4月にスタートをしたばかりですが、毎回8名程度の患者さんやご家族の方が参加しています。

胆沢病院のサロンの特徴は、胆沢病院に通院している患者さんはもちろんですが、胆沢病院以外の患者さんやご家族も利用できることです。

理由としては、奥州・胆沢・江刺地区にはがん患者サロンを設置している病院がまだないため、悩みや心配事を相談できる場、他の患者さんたちと交流する場を提供したいと考えたからです。

実際に「がん患者・家族サロン」はどのような雰囲気なのだろう…と思われるかたも多いと思います。



サロン入口



サロンの中

参加者は、自分が病気の方もいれば、家族が病気という方、ご夫婦での参加とさまざまです。

また、患者さん同士、お話ができることで、次のような話がありました。

- ・自分も術後の体調に合わせて色々工夫していたが、他の人の工夫を聞いて良かった
- ・自分の行っている治療のほかにも、別な治療もあることを知り勉強になった
- ・家族には普段、なかなか言えないが感謝している

など、一人で抱えていることやちょっとした悩みも相談し合えます。

このように思いを語れる場は、患者さんやご家族にとって、大切な場所です。

胆沢地区の周辺にお住いの方で興味のある方は、気軽な気持ちで参加をしてみてください。

また、がん患者さんのためのサロンを作っている病院も増えてきましたので、自分の通っている病院でもサロンがある方は、のぞいてみるのも良いと思います。

岩手県奥州市水沢区岩手県立胆沢病院 【問い合わせ】 0197-24-4121 がん患者・家族サロン
毎月 第2木曜日・14時～16時 【場所】 胆沢病院1階「カレーショップ ジャマイ館」
※胆沢病院に通院している患者さんはもちろん、胆沢病院以外の患者さんやご家族も利用できます。

被災地花壇植え替えボランティア活動

6月7日、陸前高田市高田町森の前地区の道路脇に広がる花壇「ちっちゃな花畑2」で、チューリップの球根掘りだし作業のお手伝いをしました。

6月下旬から始まる同地区のかさ上げ工事で埋没してしまうので、その前に花や球根を公共施設や公園などに移し替えようと、この日も県内外からボランティアが集まり、移し替え作業に精を出しました。この花壇は「亡くなった人の鎮魂と生き残った者の癒しの場にしたい」と、震災後地元住民の方たちが作り、ボランティアの支援で維持されて来たもので、多くの方たちの思いがこもっています。カスミソウ、ハナビシ草、ネモフィラなど美しい花の中での作業に幸せな気持ちになりました。4年目を迎えた被災地では震災の風化によるボランティアの激減が顕著です。圧倒的人手不足で、今こそボランティアのニーズが高まっているそうです。皆さんもいかがですか？とても素敵なボランティアを私たちに教えてくれ、一緒に作業してくれた被災地復興支援団体「いわてゆいっこ花巻」代表の望月達也さん、本当にありがとうございました。近々きっとまたお伺いします。



被災地花壇植え替え作業。左後方の土手のように見える部分が、かさ上げされる高さです。

〈いわてゆいっこ花巻〉岩手県花巻市一日市 4-21 TEL : 0198-22-4748

～ がんの苦しみをやわらげたい ～

緩和ケアチーム、緩和ケア外来のご案内

がんの痛み、呼吸の苦しさ、心のつらさ、食事やお薬の悩み、経済的な問題などは県内各病院における緩和ケアチーム、緩和ケア外来に相談しましょう

	代表電話	担 当
岩手医科大学付属病院	019-651-5111	直通 019-651-5677 がん患者支援情報室
県立中央病院	019-653-1151	(内線 2118) 医療なんでも相談
盛岡赤十字病院	019-637-3111	(内線 338) 緩和ケア相談室
盛岡友愛病院	019-638-2222	医療相談室
県立中部病院	0197-71-1511	がん相談支援室
財団法人総合花巻病院	0198-23-3311	
県立胆沢病院	0197-24-4121	(内線 1066) がん相談支援室
県立磐井病院	0191-23-3452	(内線 2105) がん相談窓口
一関病院	0191-23-2050	医療相談室
県立千厩病院	0191-53-2101	
県立大船渡病院	0192-26-1111	地域がん相談支援センター
県立釜石病院	0193-25-2011	(内線 3010) 外科外来
県立宮古病院	0193-62-4011	(内線 2130) 緩和ケア相談室
県立久慈病院	0194-53-6131	がん相談支援室
県立二戸病院	0195-23-2191	カシオペアがんなんでも相談室

※緩和ケアチーム：がんの早期から痛みを取る専門チーム。患者さんご家族からの要請で稼働しますので、痛みがあれば積極的に利用しましょう！

栄養講座レシピ がん患者さんのための栄養講座 パート17

岩手県立胆沢病院 緩和ケアチーム 管理栄養士 蛇口 真理子

今年も暑い夏を迎えますね。夏は食欲が落ちやすい季節です。
今回は、普段ならデザートイメージがある白玉団子を使用し、
冷たいスープ仕立てにした一品を紹介します。
夏に不足しがちなエネルギー・蛋白質を美味しく補いましょう。



もちもち白玉団子の冷たいスープ

もちもち白玉団子の冷たいスープ

1人前エネルギー 約 110 kcal

材 料	分量 (2 人分)
【具】	
白玉粉	30g
豆乳	40cc
おくら	2 本
パプリカ	30g
【スープ】	
だし汁	250cc
豆乳	100cc
味噌	大さじ 1.5

作り方

- ① 【具】の材料 白玉粉と豆乳をボールに入れ、手でこね、団子を作る。
 - ② 鍋に湯を沸かし、①の団子を茹でる。
 - ③ おくらは茹でスライス、パプリカは5mm角に切る。
 - ④ 【スープ】 鍋にだし汁を入れ強火にかけ煮立ったら、火を止める。味噌を溶き入れ、豆乳を加え、粗熱が取れたら冷蔵庫で冷やす。
 - ⑤ 器に①をいれ、冷やしたスープを注ぎ、おくら・パプリカを飾り、出来上がり。
- ★野菜は、ミニトマトやきゅうりでもよく合います。

「たとえ明日、世界が終るとしても、今日、私はりんごの木を植える」

～緩和ケアチーム管理栄養士のある日の一日～

今日、患者さんからリクエストがあり、「ミニ冷麺」を提供しました。
この患者さんは、自分の病状、余命を理解されている方で、以前、寂しそうな顔で「病気のことを分かっているのだけど、良くなれるんじゃないかなんて思ったりする」と話されていました。

二日前、病室を訪問しました。その日は真夏のような暑い日でした。でも、病室の窓からの風は心地よく、患者さんと「気持ちがいい風だね」と話していました。患者さんが「こんなに暑い日は冷麺が食べたくね。こんな時なのにそんなことを思うんだね」と笑っていました。

「こんな時」とは残された命のことです。私が「冷麺か、いいね～」と言うと、患者さんの顔がぱっと輝いた顔になり、「いいの!! 嬉しい」と喜んでくれました。

その笑顔を見たときにある言葉を思い出しました。「たとえ明日、世界が終るとしても、今日、私はりんごの木を植える」というマルティン・ルターの言葉です。どのような状況にあっても希望を持ち、今日を大切に生きる…という意味です。「こんな時にでもそう思える」と話した患者さんの爽やかな笑顔を見たとき、その姿に心を動かされました。

食べたいものがある、当たり前にも思えるかもしれませんが、患者さんがそう思えることは大切なことです。希望を支える、そのことに関わらせて頂ける喜びに感謝を感じます。

患者さんの「ありがとう」の言葉以上に、関わった私達が「ありがとう」なのです。



ミニ冷麺

各地からのタオル帽子活動レポート⑥

～広島県尾道市乳腺疾患患者の会・のぞみの会より～

タオル帽子への思い

乳腺疾患患者の会・のぞみの会は発足して21年目になり、乳がん患者さんの親睦と支えあい、乳がんの勉強会、講演会、啓発活動、社会的支援活動等を行っています。

数年前、岩手ホスピスの会の活動により、タオル帽子の存在を知り、会員に呼びかけてタオル帽子を作成し近隣の病院に届ける活動を続けています。2011年3月11日の東日本大震災の時も岩手ホスピスの会さんを介して被災者の方にタオル帽子を届けて戴き、皆さんに大変喜ばれたとの報告を聞いて私達も嬉しく思いました。



浜中和子先生（中央）

また子供用のタオル帽子を作成し、日赤病院や大学病院の小児病棟の子供さんに利用して貰っています。子供さんがそのタオル帽子を被って、院内学級に出席されているそうです。先般、「タオル帽子のお蔭で頭が寒くないし、可愛くてとても気に入っています。」とのお手紙と、タオル帽子を被った可愛い写真が送られてきて、私達も思わず笑顔になりました。次々と新患さんが入院されるので、定期的に持って行って喜ばれています。

さらにリレーフォーライフ広島やピンクリボン活動の際にもタオル帽子を展示し、必要な方には差し上げたり、作り方をお教えしています。

がん体験者が作ったタオル帽子が新たながん患者さんの頭を守り、さらにがん患者さんの心を暖かく勇気づけて、タオル帽子の輪がこれからも広がる事を願っています。

（乳腺疾患患者の会・のぞみの会 会長 浜中和子）

〔広島県尾道市栗原町 5901-1 浜中皮膚科クリニック内 TEL：0848-24-2413〕

岩手県がん対策推進協議会参加

第16回岩手県がん対策推進協議会が6月19日盛岡市で開催され、医療者、行政、患者会、がん医療関係機関等から16名の委員が参加して、がん対策推進条例が4月から施行されたばかりの岩手県のがん対策について話し合いました。



過去のがん対策推進協議会

当会はがん患者さんにご家族の声を代弁して、

- ①グループワーク、患者・住民の作業部会、タウンミーティングなどを開催し、患者会をはじめとするがん患者さんの代弁者等をメンバーに加え、他県の好事例を参考としながら、がん対策推進条例を全面的に駆使してがん対策を進めて行くことを今後の課題と考えます。
- ②多くの患者さんが待ち望んでおり、岩手県沿岸部、県北部への緩和ケア病棟（ホスピス）設置について今後重点的に取り組んで行くことが望ましいと考えます—と意見を述べました。

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。

※型紙・見本の帽子 1 個（送料込み 1,000 円）

※申し込み方法：はがきかメールでお願いします。メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：031-0823 青森県八戸市湊高台 6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」



これからのタオル帽子講習会日程

7 月 12 日：タオル帽子講習会・倶楽部

8 月 9 日：タオル帽子講習会・倶楽部

9 月 13 日：タオル帽子講習会・倶楽部

場所：盛岡市総合福祉センター 開催時間：午後 1 時 30 分から 問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願います。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2014 年 4 月～ 6 月

- 4 月 5 日 通信発送作業～第 2 回役員会
- 4 月 12 日 タオル帽子倶楽部・講習会 ……………（盛岡市総合福祉センター、15 名）
岩手県立大船渡病院がん患者サロン「よりどころ」訪問 ……………（同院 2 階パティオ、4 名）
- 4 月 19 日 ホスピスについての啓発活動 ……………（滝沢市土日ジャンボ市、7 名）
- 4 月 20 日 がん患者団体支援機構主催・全国患者会テレビ電話会議「canps station」参加
……………（盛岡市内、1 名）
- 4 月 29 日 倉庫作業 ……………（盛岡市タオル帽子倉庫、6 名）
- 5 月 10 日 タオル帽子倶楽部・講習会 ……………（盛岡市総合福祉センター、18 名）
- 5 月 17 日 第 3 回役員会～岩手ホスピスの会ホスピスセミナー開催
……………（盛岡市総合福祉センター、45 名）
- 5 月 20 日 岩手医科大学附属病院木村祐輔先生と緩和ケア病棟について懇談
……………（岩手医科大学附属病院、3 名）
- 5 月 24 日 全国がん診療連携拠点病院へのタオル帽子発送作業 ……………（盛岡市タオル帽子倉庫、7 名）
- 5 月 31 日 タオル帽子ボランティア懇親食事会 ……………（盛岡市内、13 名）
- 6 月 7 日 被災地花壇植え替え作業ボランティア ……………（陸前高田市森の前地区「ちっちゃな花畑 2」、4 名）
- 6 月 8 日 タオル帽子倉庫作業……………（タオル帽子倉庫、8 名）
- 6 月 14 日 第 4 回役員会～タオル帽子倶楽部・講習会
……………（盛岡市総合福祉センター、21 名）
- 6 月 19 日 第 16 回岩手県がん対策推進協議会参加
……………（盛岡市勤労福祉会館、1 名）
- 6 月 21、22 日 私のホスピスー街頭アンケート調査実施
……………（滝沢市土日ジャンボ市、6 名）
- 6 月 28 日 がん患者家族サロンボランティア研修会
……………（盛岡市総合福祉センター、6 名）
- 6 月 29 日 タオル帽子発送作業 ……………（盛岡市総合福祉センター、6 名）



被災地花壇ボランティア活動

がん患者さんのための栄養公開講座

～ストレスに負けない食生活～

〈内 容〉

1. ストレスと栄養
2. がんの治療中の食事
3. がん患者さんと家族を支える食事



がん患者さんだけでなく一般の方もご参加ください。ストレスに負けない食事を紹介します！また、最近がんの患者さんや家族に栄養指導していると、「同じおかずを食べれない」と話される方がおります。ちょっとした工夫で、同じおかずと一緒に楽しめることをお話しします。ぜひご参加ください！

日 時：2014 年 8 月 31 日(日) 午後 1：30 ～ 2：30

場 所：盛岡市若園町・総合福祉センター 参加費：無料

講 師：岩手県立胆沢病院・管理栄養士 蛇口真理子

私のホスピス～街頭啓発活動

岩手ホスピスの会では 6 月 21～22 日、盛岡市近郊の商業施設内で道行く人に、「将来あなた自身が自分のことを決められなくなった時に備えて、あなたの希望や思いを整理してみましょう」と呼びかけ、街頭アンケート調査を行いました。足をとめた方々はそれぞれの立場からアンケートに書き込んでいました。本通信にも別紙で同封しましたので、ぜひお書き頂き、一通は当会へお送りいただき（集計をさせていただきます）一通はご自身で保管して役立てていただきたいと思います。また、コピーして周りの方に書いていただきお送りいただければ幸いです。

送付先：〒020-0883 盛岡市志家町 13-31 岩手ホスピスの会



街頭アンケート活動

新年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。

2014 年度会費（2014 年 1 月～2014 年 12 月分）を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。

なお、行き違いですすでにお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。

会費：1,000 円（複数口可） 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会